

終活

元気な今だから考える

災害時は3密を避け 指定避難所より親戚・友人宅へ避難を！

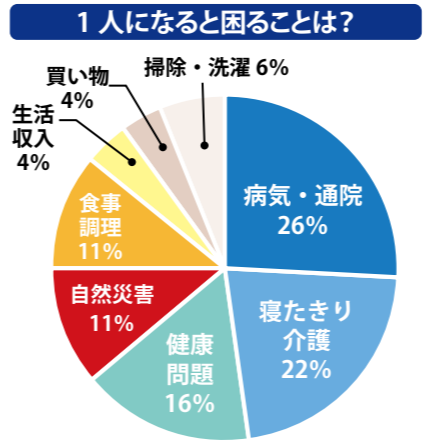
―連載⑦「自覚してですか？ 誰でもいつかは「ひとりになる」―

ひとり暮らしになって日常生活で一番困るのは、病気・通院・介護などの健康問題。その問題点と対応策をシリーズで掲載してきましたが、次に困るものとしてあげられたのが「自然災害」。そこで、梅雨入りした今回は災害発生時の避難方法や避難所における新型コロナウイルス対策について紹介します。



北九州市内の土砂災害 警戒区域は1300カ所余

本誌編集部では昨年、北九州市内に住む高齢者200人を対象に「ひとり暮らしに関する意識調査」を実施しました。その結果が左図の円グラフです。「自然災害」が困ることの第4位にランクされた理由は、①「昨年7月の西日本豪雨による板櫃川など中小河川の氾濫や門司区奥田の土砂崩れによる高齢



者夫婦の死亡 ②平成16年4月に発生した二回にわたるマグニチュード7の熊本大地震の余波 ③世界各地での気候変動による自然災害多発化の報道などがあげられると思います。

市内7区には1300カ所を超える「土砂災害警戒区域」があり、自分の住んでいる所が該当箇所かどうかはハザードマップ(被害予測地図)で確認できます。また、市内には「洪水浸水想定区域」に指定されている河川が8つあり、市のホームページでも確認できるようになっています。

左ページの表は、市から発令された門司区藤松校区に対する「土砂災害避難情報」の過去4年分を一覧表にしたものです。同校区は中央に都市高速道路を挟んで山側と海側に二分された坩堝型の地形で、急傾斜地の多い山側地区は土砂災害警戒区域に指定されています。

「自分の命は自分で守る」を 合言葉に早目の避難を！

一昨年7月の西日本豪雨では山側8カ所で土砂崩れが起こり、民家の庭まで土砂が流れ込んだり、治山ダムや採石場跡地からの大量の出水で避難所への避難もできなくなるといふ事態も生じ、上藤松2丁目に住む高齢女性は『夜中の濁流と落石の転がる音が恐ろしく、避難所へも行けなかった』と当時の様子を恐る恐る語ってくれました。

大雨が降り続き洪水や土砂災害などの発生が予測されると、気象庁から「大雨・洪水注意報」が発表される一方、市からは「避難準備・高齢者等避難開始」「避難勧告」「避難指示(緊急)」などの避難情報が発令されます。具体的には、自分の携帯電話やスマホに緊急速報の「エリアメール」が入ります。熊本大地震では、2度目のマグニチュード7

を知らせる真夜中のエリアメールでたまたま起こされた人もいたことでしょう。

指定された避難所への避難は、①高齢者・障害者など要支援者は「避難準備」情報段階での早目の避難が無難でしょう。遅くとも「避難勧告」で逃げないと「避難指示(緊急)」では逃げようにも逃げられない事態が発生することを忘れないでください。

また、避難する際には2〜3日短期滞在用としての飲料水・食品・貴重品・持病薬・下着・タオル・歯ブラシなど最低限のものを持参すること。テレビで見る避難所は長期滞在の映像で、食物や飲物等々一切出ませんのでご注意ください。

藤松校区では、土砂災害避難情報が発令されると公民館内に「災害対策本部」を設け、土砂災害警戒区域内の町

内会長へ電話連絡、会長↓班長↓町内会加入者へと早目の避難をするような連絡網ができています。西日本豪雨時に開設された避難所へは2日間で約200人の校区民が避難したそうです。これを契機に、同校区では17ある町内会の町内会長・班長などを対象にした「防災リーダー研修会」「DIG(災害図上訓練)講習会」などを開催しています。三谷次雄防災対策部会長は『自分の命は自分で守ろう！早目の避難が一番です』を合言葉に啓発活動に努めています。

避難所における 新型コロナウイルス対策とは

新型コロナウイルスの感染拡大から半年が経過しましたが、治療薬でなくワクチンが開発されない限り終息は宣言

※(2019年9月26日作成)

年	発令月日	避難情報の種類
平成28年	6月20日(月)	避難準備
	6月22日(水)	
	7月13日(水)	
	9月4日(日)	
	10月4日(火)	
平成29年	7月7日(金)	避難指示
	9月16日(土)	避難準備
平成30年	6月30日(土)	避難準備・避難勧告
	7月3日(火)	避難準備
	7月5日(木)	避難準備・避難勧告
	7月6日(金)	避難勧告・避難指示
	7月29日(日)	避難準備・避難勧告
令和元年	7月18日(木)	避難勧告・避難指示
	7月21日(日)	避難準備
	8月14日(水)	避難準備
	8月27日(火)	避難準備
	8月29日(木)	避難勧告・避難指示

されたいようです。出水期に入った現在、自然災害が発生した場合の避難所での新型コロナウイルス対策はどうすればよいのでしょうか？ 三谷防災対策部会長も大変心配しておりました。取材後の本年5月

- 7日に福岡県が発表した「避難所運営マニュアル」によると、
- (1) 指定避難所以外の避難所として、空き教室やホテル・旅館等を活用する。
 - (2) 発熱・咳など症状者の専用スペース・トイレは、一般避難者とゾーン分けする。
 - (3) 消毒液・ペーパータオル・非接触体温計等の物資・資材を可能な限り準備する。
 - (4) 避難者の健康状態把握のため「感染症評価用紙」を準備する。
 - (5) 避難所の換気は1時間に2回程度、避難者間の距離は2mとする。
 - (6) パーティション・テントを活用し、食事時間はずらし密集・密接を避ける。
 - (7) 段ボールベッドや蒲団は互い違いに配置し、飛沫感染を避ける。

以上、具体的な感染対策が記されていますが、避難所での3密を回避するためには①自宅での待機(在宅避難)が一番ですが、それが難しい場合は②親戚関係者や友人の家へ避難するのがベターな方法であると思います。おわりに、今年は災害発生が少ない年であることを願わずにはられません。

《追記》北九州市も5月21日に「避難所における感染防止対策および運営体制」について発表しました。

シニアスタッフ 上田篤彦